

くすっ子



鴻巣市立屈巣小学校
学校だより
令和3年 7月20日
No. 9

《花いっぱい 夢いっぱい 笑顔いっぱい 屈巣小》
花をさかせる学校・夢をはぐくむ学校・笑顔あふれる学校

夢をはぐくむ学校 ～渋沢栄一の「夢七訓」～

校長 諏訪 けん

- ① 夢なき者は、理想なし（夢がない人は、理想がない）
- ② 理想なき者は、信念なし（理想がない人は、信念がない）
- ③ 信念なき者は、計画なし（信念がない人は、計画がない）
- ④ 計画なき者は、実行なし（計画がない人は、実行しない）
- ⑤ 実行なき者は、成果なし（実行しない人は、成果が出ない）
- ⑥ 成果なき者は、幸福なし（成果が出ない人は、幸福になれない）
- ⑦ 故に幸福を求める者は、夢なかるべからず（だから、幸福になるために、夢をもちなさい）

これは、2024年に新一万円札の肖像にもなる渋沢栄一の教えです。必ずしも教えのとおりではない場合もあると思いますが、夢をもつ意義や大事さを伝えていることがわかります。渋沢栄一は、埼玉県深谷市の出身で、埼玉県の偉人の一人です。江戸の幕末・明治・大正・昭和の初めを生きぬき、500以上の会社の設立と、600もの社会公共事業、福祉・教育機関の支援と民間外交に携わった人物です。その会社や事業のほとんどは今も存続し、私たちの生活に欠かせないライフライン産業や病院・大学等、日本社会を大きく発展させる基盤を作った人と言えます。例えば、ガスや電気は、栄一が若いころ（江戸の幕末）の日本には、ほとんどありませんでした。それが、200年後の今では、当たり前のように誰もが使うことができるようになっていきます。これも、栄一の「夢」があったから成しえたことなのだと思います。もしかすると、夢七訓の中の「成果」や「幸福」は、栄一個人にとってのことではなく、人々や社会にとっての「成果」や「幸福」を意味していたのではないかと思います。

さて、夢といえば、本校のめざす学校像の一つに「夢をはぐくむ学校」があります。栄一の生きた時代とは社会状況が変わり、夢のかたちも変わってきていると思いますが、「夢七訓」の精神には現在と共通のものがあると信じます。そのような考えから最近、6年生に渋沢栄一の業績に触れてもらっています。（児童にとっては、やっかいな宿題が増えて不評かもしれませんが。）6年生の中には、私からの課題に喰らいついて、深く考えてくれる児童もいます。また、「校長先生、渋沢栄一が好きだね。」と話す児童もいることを聞くと、しばらく続けようと思っています。

ところで、私の夢は……。お恥ずかしながらですが、幼稚園のころはタクシーの運転手。小学校中学年までは野球選手。高学年では国会議員。中学生では航海士（できれば南極越冬隊）、高校・大学では、教員でした。今の立場になり、ここ数年は、「仁者になること」が夢というよりは、信条となっております。「仁者無敵」という言葉を渋沢栄一から、教わったためです。振り返ると、学校で教わったことや出会った先生や友達からの影響を受けて、自分の今の夢が形づくられました。児童の夢をはぐくむことは、児童の未来をつくることにもなります。私たちの何気ない児童とのかかわりが、児童の夢につながる。大変崇高なことです。このことを改めて認識し、今後の教育活動を進めてまいります。

最後になりましたが、1学期中の皆様方の本校教育活動に対するご理解とご協力に対し、厚く御礼申し上げます。明日から、長い夏休みになります。新型コロナウイルスの感染拡大が心配される状況にありますが、病気やケガ（特に交通事故）には、ご留意いただきますよう、お願いいたします。夏休み明けに、児童の夢につながる体験等のお話を聞かせていただくことを楽しみにしています。

○児童の交通事故、児童がPCR検査で陽性、その他重大事故事件など、緊急時は、夏休み中でも学校へご連絡願います。土日や勤務時間外（8:15 以前、16:45 以降）は、鴻巣市役所代表 048-541-1321へ、ご連絡ください。